



鹿児島県立甲南高等学校

進路指導室だより

平成27年度 第1号 (5月8日発行)

甲南高校110周年を前に

進路室を訪ねて来られたあるお客様が、夕方の甲南生諸君の立ち居振る舞いに非常に感動されていた。校門を出る際に門札をする生徒が多くいたこと、また自分が校門に入るやいなや元気な挨拶を多くの生徒がしてくれたこと。応対をして最初の話がこの話であった。君たちを大変誇らしく思えた瞬間である。甲南高校は来年110周年を迎える。校舎改築もそれに間に合わせるよう、現在急ピッチで進行している。この4月に文部科学省からスーパーグローバルハイスクールの指定を受けたのに続いて、去る4月17日に行われた甲鶴戦では史上初の4連覇を達成し、今、甲南高校は新たなステージへ踏みだそう(挑戦しよう)としている。さらには、今春の国公立大学合格者数はこの8クラス時代になってから最高の278名(現役214名)。君たちには与えられるものすべてに全力でぶつかり、品格のある甲南生として輝いてほしいと感じている。

焦点(目標)を定めよ

日本を代表する数学者 広中平祐氏のことば

学問をする上で非常に大切なことは目標を定めることである。人は目標を定めないと、前に突き進んでいくエネルギーが生まれにくい。目標をはっきり掴んでいるかいないかで、人間の成長はかなり違ってくる。他人と比較する必要は全くない。自分自身の目標を持つことが大切である。

さて、君たちはどうだろうか。1年生、2年生、3年生、それぞれの立ち位置で何らかの目標を設定できているだろうか。高校生は忙しい。しかし、その忙しさは君たちが今の時期に、もがき苦しみ乗り越えてほしいと考えられたプログラム(壁)でもある。逃げずに果敢に挑戦してほしいと思っている。そこで、今年度最初の関門は来週から始まる実力考査ではないだろうか。**1年生**は、いよいよ高校生初の110分試験を経験することになる。中学校までのことはリセットし、高校での既習事項をまずは徹底的に復習して臨んでみなさい。きっと何かが見えてくるはず。**2年生**は、理系、文系に別れての初めての試験となる。自分がいろいろ悩んだ末に決断した道である。言い訳せずにその覚悟をみせて臨んでほしい。**3年生**にとっては文武両道の真価が本当に問われる試験になることは間違いない。これを乗り越えられずして、インターハイ予選を自分の思い描いた結果で終えようなんてそれは虫がよすぎる話である。すべては自分の充実感のためと考え、自分により負荷のかかる方を選択して、高い志をもって臨んでほしい。

小学生の頃、虫メガネで太陽光を1点に集めて紙を焦がす実験をしたことがあるのではないだろうか。焦点がふらふらしていると、紙を焦がすことはできなかったはずである。たったこれだけの実験も、人生のあり方を示唆しているように思えてならない。自らの目標がしっかりと定まらなければ、手にしたい感動も決して手に取ることは出来ないのである。鳥肌が立つようなガッツポーズを手に入れるべく、君たちなりの覚悟をみせてもらいたい。